

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 16 章 13-24 節>
パウロが手紙の最後で語りかけた言葉から学びましょう。

1 (13-14) 関連し合う 4 つの勧め。

パウロは手紙の最後で大事なことを 4 つ簡潔に指摘します。ここで特に触れておきたいのは、「**信仰に基づいてしっかり立ちなさい**」です。「**信仰**」で考えるべきは私たちの心意気ではなくその内容です。神様が起こされたイエス様の十字架の死と復活の出来事とそれが持つ意味です。

「その中にしっかりと立ちなさい」(直訳)とパウロは勧めているのです。その時に、他の 3 つに真剣に取り組むこともできるのです。

2 (15-20) 新しい兄弟姉妹「神の家族」の内容は？

聖書を初めて読んだ時に不思議に思う言葉の一つに「兄弟」があります(ローマ 16:1, 15 では「姉妹」)。教会で使う「兄弟姉妹」は、ご自身の御子によって私たちへの破格の愛を示して下さった神様を信じて生きる者たちの新しい「**神の家族**」(エフェソ 2:19)の兄弟姉妹です。ここでは 15, 20 節で使われていますが、パウロは一つの教会だけではなく、もっと広い、世界中に広がりつつある「**神の家族**」を考えており、それは血でつながった家族にはない広がりを持っています。それは、1 で述べた救いの出来事を起こして下さった神様を信じる者からなる家族を考えているからです。ここに記された「**神の家族**」の中に私たちも入れられたのです。

3 (21-24) 厳しい言葉(22 節：アナテマ)の真の意味は？

「**主を愛さない者は、神から見捨てられるがいい**」(22)。ぎょっとする厳しい言葉です。これは原文では「アナテマ」という一語で「破門」を意味します。教会はどんな人も受け入れますが、イエス・キリストによる神の救いを本当に知った人からなる「**神の家族**」であり、主を否定する人をそれで良しとする群れでもないのです。その人たちを裁いてはなりません。なぜなら、私たちも以前はそうだったからです。主の恵みを本当に知って加わってもらえる群れを目指していきたいと思います。